

真岡市水処理センター他の維持管理業務を開始しました。

日本下水道事業団（JS）では、栃木県真岡市より下水処理場2施設(真岡市水処理センター、二宮水処理センター)の維持管理業務を新たに受託し、令和6年6月1日から業務を開始しました。今後、JS技術開発実験センターの研究施設に加えて、隣接する真岡市水処理センターの施設を活用することにより、実規模での実証ニーズに応え、早期の実用化・社会実装を必要とする2030年目標に向けた脱炭素化技術(省エネ・創エネ)やAI・ICT活用技術等の開発を促進します。

1. 水処理センター

真岡市には、規模や処理法が異なる2つの水処理センターがあり、両水処理センターの維持管理業務を行います。施設の老朽化などの課題を抱える一方で、脱炭素化への取組¹も推進しているため、幅広い視野での維持管理が求められています。

◆ 真岡市水処理センター

供用開始：昭和58年3月

排除方式：分流式

水処理：標準活性汚泥法(処理能力：21,760m³/日)

汚泥処理：濃縮(重力・常圧浮上)－嫌気性消化－脱水

◆ 真岡市二宮水処理センター

供用開始：平成7年3月

排除方式：分流式

水処理：オキシデーションディッチ法(処理能力：3,500m³/日)

汚泥処理：濃縮(重力)－脱水



真岡市水処理センターの全景写真

¹ 国土交通省の「令和5年度下水道温室効果ガス削減推進モデル事業」に採択されました。

<https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/watersupply/content/001743791.pdf>

2. 受託業務

水処理センターの維持管理業務を、ユーティリティや一部の修繕を含めて包括的に受託しており、当初は3年間の協定を締結しています。令和6年4月1日より技術開発室の下に真岡分室を設置し、2か月の準備期間を経て、6月1日より維持管理業務を実施しています。

- 業務：保守点検、運転操作監視、水質試験、ユーティリティ、修繕（一部）他
- 期間：令和6年6月1日～令和9年3月31日

（参考）JS 技術開発実験センター

技術開発実験センターは、分流汚水を使用できる常設の実験フィールドをJS独自に確保するとともに、民間企業等との共同研究を推進することなどを目的として、平成13年6月に開所しました。これまで、真岡市水処理センターの実下水を用いたパイロットプラント実験のほか、多目的実験用水槽を用いた水処理機器の性能試験などを行ってきました。

- 開所年月：平成13年6月
- 主要施設：研究棟、実験棟、中央実験ヤード、多目的実験水槽
- 共同研究利用実績：累計64者(令和6年6月1日現在)



技術開発実験センターの全景写真

【本件に関するお問合せ先】

日本下水道事業団 技術開発室

電話 03-6361-7849